

経営比較分析表（令和5年度決算）

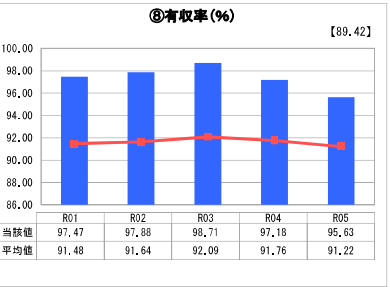
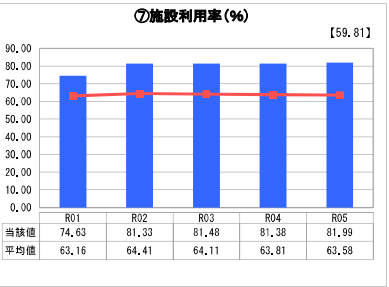
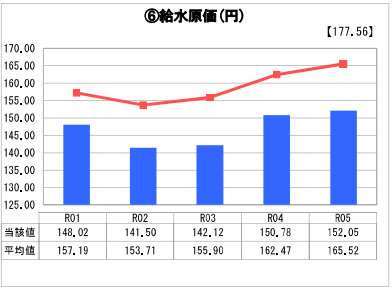
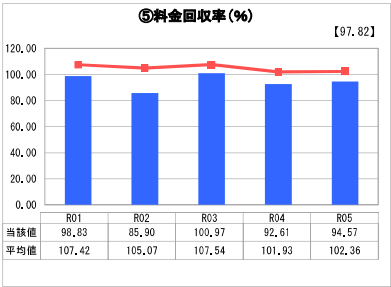
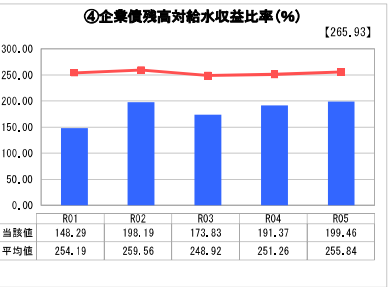
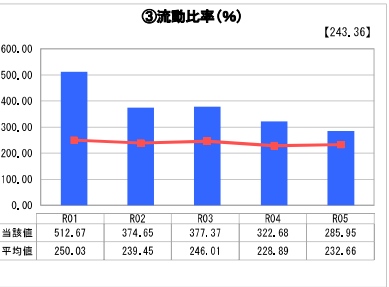
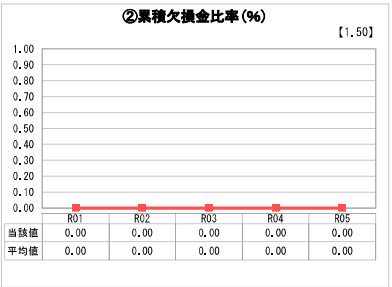
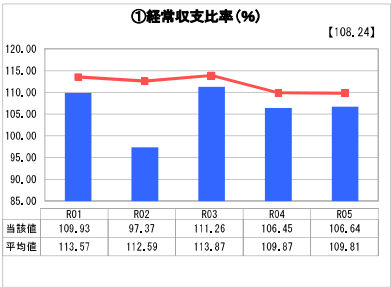
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.64	100.00	2,134	

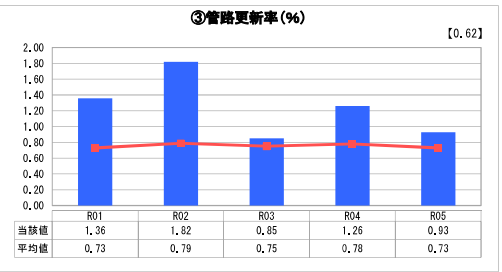
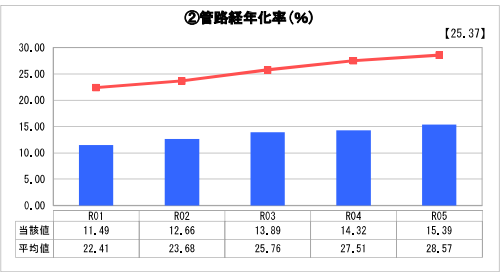
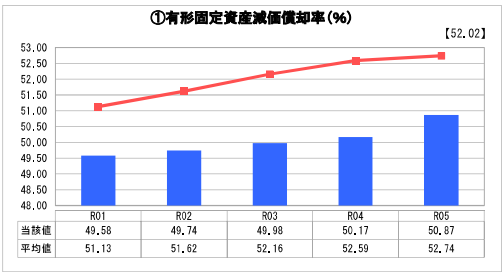
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
343,529	72.11	4,763.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
342,655	67.64	5,065.86

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
望ましいとされる100%を超えており、対前年比でほぼ横ばいとなっています。今後、給水収益の減少及び施設更新等に係る費用の増加が見込まれるため、当該指標は下降傾向となる見込みです。

③流動比率
望ましいとされる200%を超えており、支払能力はあるといえます。しかし、物価高騰等による費用の増加や、工事の年度末完成に伴う未払金の増加により、指標が下降したと考えられます。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均と比べると、値は低く、良好な状況です。しかし、物価高騰等による経費の増加に加え、施設の更新需要の増大による工事費が増加傾向にあるため、企業債の借入を継続的に行っていく必要があり、値は上昇傾向です。

⑤料金回収率・⑥給水原価
給水収益の減少に加え、物価高騰等の影響による支出の増加により、数値が悪化したものです。

⑦施設利用率
類似団体と比較し良好な数値ですが、一日平均配水量は減少傾向にあるため、施設のダウンサイジングなど水道施設の規模適正化が引き続き必要です。

⑧有収率
類似団体と比べ高い有収率を保っていますが、近年はやや下降傾向です。これは、経年劣化した配水管等において地下漏水が発生し、地下に浸透していた水量が増加したものと考えられます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
使用年数が法定耐用年数の5割程度を経過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。

②管路経年率
計画的な管路の更新を行っているため、類似団体と比べ、老朽化の度合いは低い状況といえます。しかし、値は増加傾向にあるため、着実な更新をしていく必要があります。

③管路更新率
類似団体と比較すると、更新投資は多い状況にあり、当市の有収率の高さに繋がっていると考えられます。一方、管路経年率は上昇傾向にあり、経年・老朽化が進行しているため、引き続きアセットマネジメントを実施しながら、計画的な更新に取り組む必要があります。

全体総括

令和5年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえます。

しかしながら、材料費や光熱費等の物価高騰により、工事費や維持管理費等の経費の増加が想定を上回っており、料金収入で賄うべき必要経費を賄うことができておらず、全体的に指標の数値が悪化している状況です。

今後この傾向は続くものと見込んでおり、適正な水道料金のあり方を検討する必要があると考えます。

施設については、老朽化の進行が続いていることから、財政状況を踏まえながら引き続き計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジングなど、施設規模の適正化に取り組み、将来に渡り安定供給に努めていく必要があります。

経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県所沢市 市民医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	ド訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
343,529	6,246	非該当	非該当	10：1

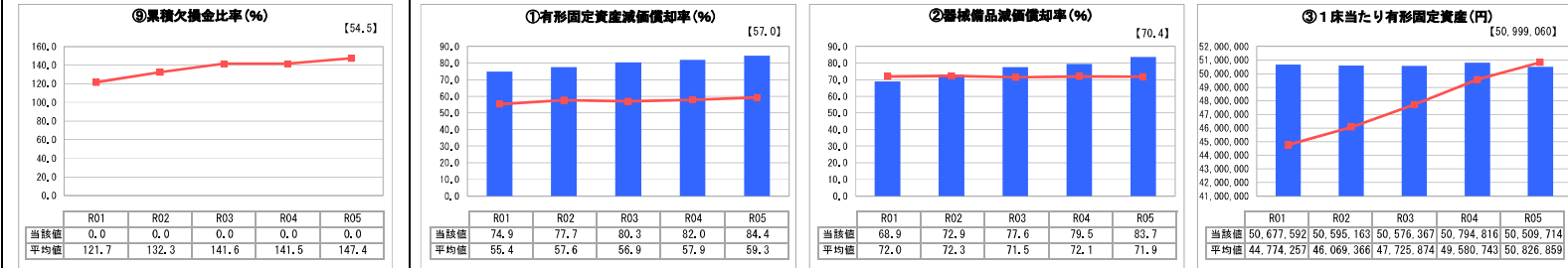
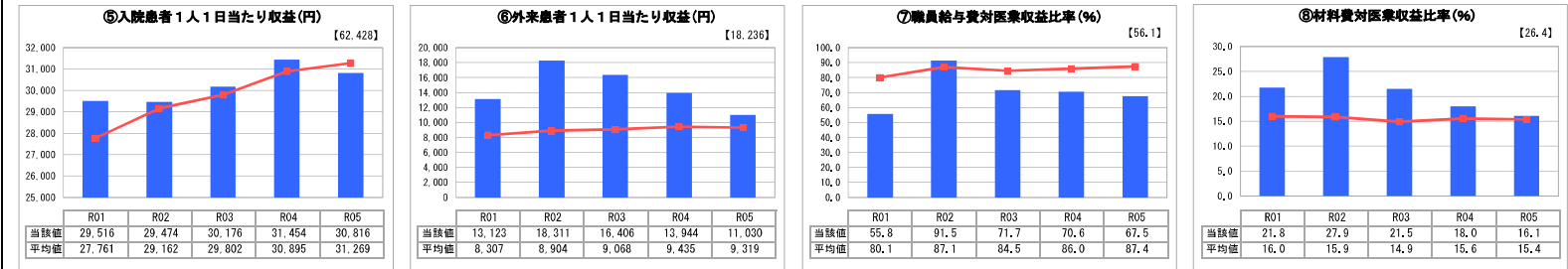
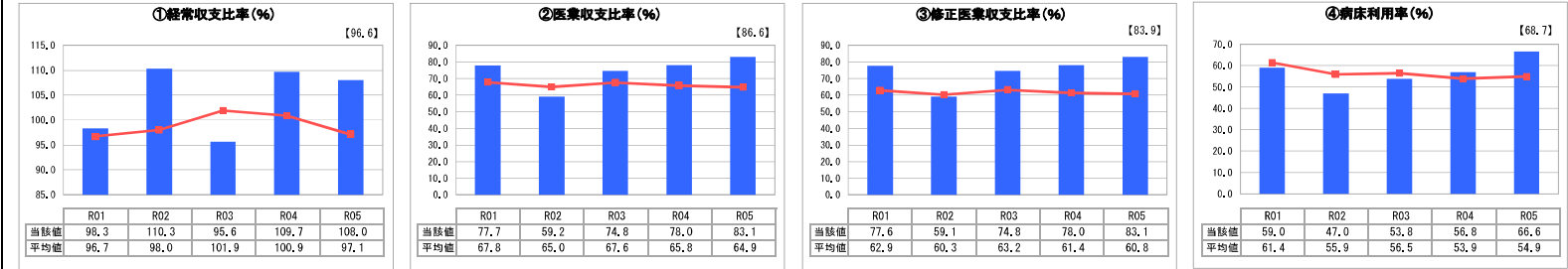
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
49	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	49
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
42	-	42

グラフ凡例		
■	当該病院値（当該値）	
—	類似病院平均値（平均値）	
[]	令和5年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の課題・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

埼玉県西部区域にある当センターの果たすべき役割として、在宅医療の後方支援、所沢地区での第二次救急医療体制の病院輪番制への参加、医師会やその他の医療機関の協力により1年365日対応可能な小児初期救急医療体制の維持、健診事業による市民の健康保持・増進への貢献があります。また、地域での回復期機能病床の不足解消に向けて平成30年11月より急性期機能病床の一部を地域包括ケア病床機能に転換しました。また、令和5年8月より地域包括ケア病床を11床から13床に増床し、より一層の活用を図ったことから入院患者数が増加しました。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、医業収益は増加したものの、一般会計からの繰入金が増加したことにより、前年度比1.7ポイント減となったが、健全経営の水準とされる100%を上回り、類似病院平均値も上回る結果となりました。

②医業収支比率は、インフルエンザや溶連菌などの感染症の流行により小児科の患者が増えたことから、医業収益が増加し類似病院平均値を上回りました。なお、項目別にみると、入院収益が15.2%、外来収益が4%増加しました。

③病床利用率は、近隣の急性期病院や介護施設と連携を深め、積極的に入院患者を受け入れたことや、新型コロナウイルス感染症の陽性患者の入院を受け入れること、また、令和5年8月より地域包括ケア病床を11床から13床に増床し一層の活用を図ったことにより、類似病院平均値を上回りました。

2. 老朽化の状況について

①②については、いずれの項目も類似団体の数値を上回っており、施設の老朽化が進んでいると言えます。

当センターは昭和51年度に建設されたもので、周辺設備も含め老朽化が進んでおり、①有形固定資産減価償却費率が高くなっている要因の一つとなっています。施設の老朽化が進み修繕に係る費用も増加傾向にあるため、施設の整備など適切な対策を講じていく必要があります。

② 器械備品減価償却率についても、同じく医療機器等の老朽化により、上昇傾向にあります。

全体総括

本年度は、医業収支比率が前年度に引き続き増加しているものの、繰入金の減少により経常収支比率は減少となりました。

新型コロナウイルス感染症が感染症法「5類感染症」に位置づけられた後も、市民から需要が大きい発熱外来を継続して実施したほか、新型コロナウイルス感染症の陽性患者（軽症患者）の入院受け入れなどを行い、公立病院としての役割を果たすよう努めました。

病院事業の経営にあたっては、コロナ禍以降の社会的な行動変容による感染症拡大等に注視しつつ、小児初期救急医療体制の運営など、公立病院として地域の中で必要とされる役割を、安定的・継続的に果たすとともに、医業収支の改善をはかるよう引き続き努めていきます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和5年度決算）

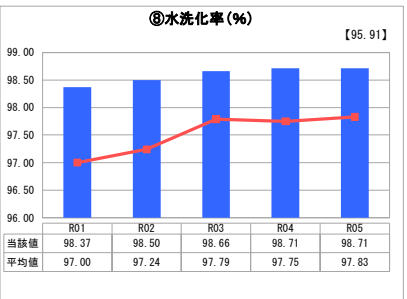
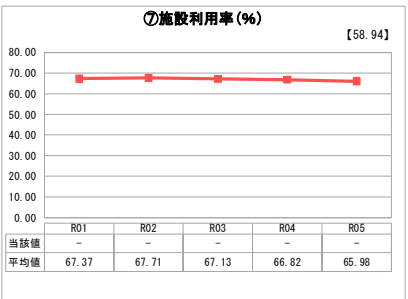
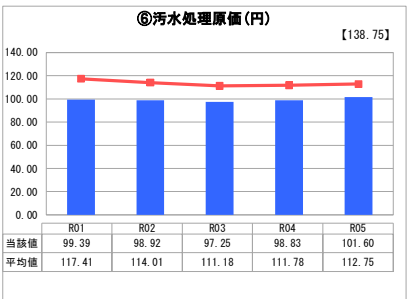
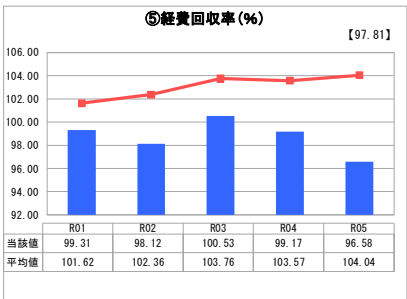
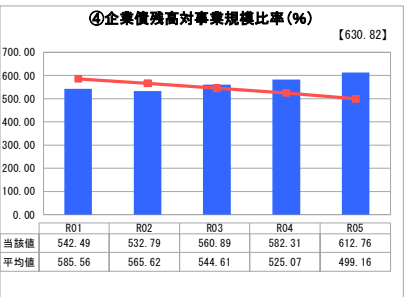
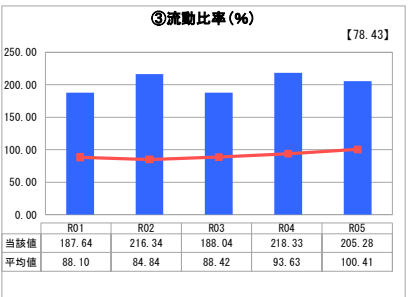
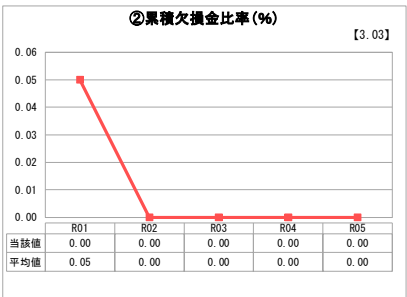
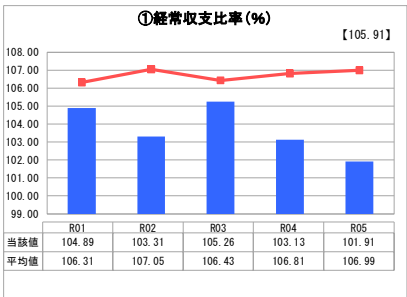
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	75.63	95.16	96.53	1,639

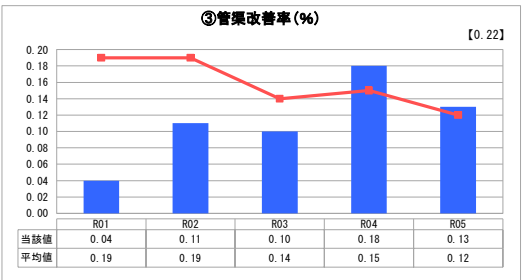
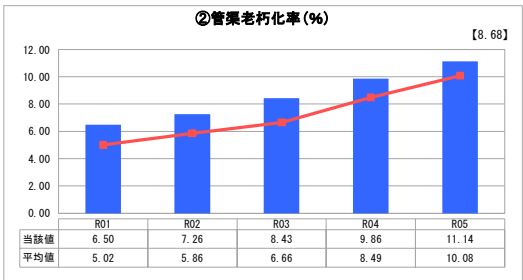
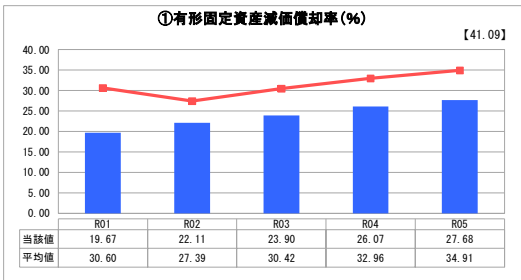
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
343,529	72.11	4,763.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
326,083	33.34	9,780.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
数値は100%を上回り、経営の健全性は保っていますが、一般会計からの基準外繰入（汚水処理費赤字補填）を行っています。この繰入は令和6年度で終了となるため、自己財源の確保と支出の削減等、より一層の経営改善が必要です。

③流動比率
望ましいとされる200%を超えており、短期的な負債を現金等で賄うことができるだけの支払能力は確保できています。また、類似団体と比較しても、高水準にあります。

④企業債残高対事業規模比率
物価高騰等による経費の増加に加え、管渠の更新需要の増大による工事費が増加傾向にあるため、企業債残高が増加し、指標が悪化しています。

⑤経費回収率
望ましいとされる100%に達しておらず、汚水処理に係る費用を、下水道使用料収入で賄えない状況です。これは、物価高騰に伴う材料費の高騰や、管渠の老朽化に伴う緊急修繕、減価償却費の増加等により、汚水処理費が増加したことが主な要因です。

⑥汚水処理原価
類似団体平均を下回っていますが、物価高騰等による費用の増加により、数値が悪化しました。

⑧水洗化率
横這いの状況が続いているため、接続率向上に向けて、引き続き水洗化の促進活動に取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
数値は低いものの、減価償却が進んでいる状況下で施設の老朽化は進行しています。老朽化対策に向けて、施設の点検・検査により現状の把握に努め、施設の安定稼働に向けた取組は必要です。

②管路老朽化率
類似団体と比較すると高い水準にあり、数値も上昇傾向にあります。今後も上昇が見込まれるので、老朽化の状況を把握しながら、緊急度の高い管渠について、計画的に更新を進めていく必要があります。

③管路改善率
対前年度比で悪化しましたが、所沢市下水道ストックマネジメント計画の計画値を達成しています。老朽化している管渠は、着実に増えているので、計画に基づき、確実に管渠の更新を進めていく必要があります。

全体総括

令和5年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえますが、各指標共に昨年度と比較し悪化している状況です。

また、管渠の老朽化が特に進行しており、今後もこの傾向は続きます。管渠の老朽化による道路陥没等、社会生活への大きな影響が生じないよう、所沢市下水道ストックマネジメント計画に定めた改築工事を確実に実施していく必要があります。

今後も自立した経営ができるよう経費の削減に努め、運転資金の確保ができるよう、中長期的な財政状況の把握に努める必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。